

一般社団法人日本臨床検査医学会 臨時社員総会 議事録

日時：2020年11月19日(木) 16:30～18:00

会場：アイーナ（いわて県民情報交流センター）7F 第1会場（LIVE会場）

開催方法：ハイブリッド開催

出席：現地参加（30名）、オンライン（117名）

書面：議決権行使125名、委任7名

I. 開会

II. 理事長挨拶

開会に先立ち、名誉会員の丹羽正治先生（東海大学 元教授 享年101歳：2019/11/28）、松原藤継先生（金沢大学 名誉教授 享年94歳：2020/2/1）の逝去を悼み黙祷がなされた。

当法人定款第21条により村上正巳理事長が議長となり、定時社員総会の決議にあたり社員数205名のところ社員出席、議決権行使、委任を合わせて半数を超えるため（162名）、定款第24条により臨時社員総会での決議は成立することが報告され、代表理事のほか、評議員の橋口照人先生を議事録署名人として議事を進めた。

III. 報告事項

1. 各種委員会活動報告（山田俊幸 庶務理事）

2020年度各種委員会活動中間報告について、各委員会のまとめが資料として用意され、報告された。

1) 学術推進委員会（委員長：萱場広之、担当理事：吉田 博）

①2020年度日本臨床検査医学会 学術推進プロジェクト研究に10課題の応募があり、下記2課題を採択した。

・LC-MS/MSを用いたセラミド測定系の一般検査領域への応用、（森田賢史、東京大学医学部附属病院検査部）

・薬剤耐性菌感染症のリスク低下に向けた新しい制御法の確立、（村田美香、長崎大学病院検査部）

②2019年度の学術推進プロジェクトに採用された3課題の中間報告が提出された。

2) 編集委員会（委員長：福地邦彦、担当理事：吉田 博）

①優秀論文賞候補論文を選出し、学会賞委員会に報告した。

②電子版英文誌 Laboratory Medicine International の Instruction to authors を策定し、Board member の選定を行っている。プラットフォームは自動的に doi が付与される J-STAGE とすることとした。

③論文査読を依頼に学会のマイページを利用することとした。学会員のマイページへの専門領域の記入をお願いする。

④支部例会・総会の多くが中止となり、また本年のコロナ対応の状況下で投稿・掲載論文が不足している。

トピックなテーマで座談会を企画している。今回は臨床検査領域の新型コロナ対応をテーマとする。その他テーマについて編集委員会で議論を行っている。

⑤投稿論文・トピックスの検討を行った。

3) 教育委員会（委員長：橋口照人、担当理事：山田俊幸）

①委員の改選を行った（RCPC 部門、Catch up セミナー部門、若手・女性の会部門）

②関東甲信越支部総会（2020年9月19日、総会長 松下一之 先生）に合わせて、RCPC を Webiner による中継にて開催した。参加者 130 名。

③第67回学術集集会にて下記を企画した。

・RCPC 1、2 (web)

- ・臨床検査医学 Catch up セミナー (web)
(eラーニングのための録画は中止となった)

4) 臨床検査点数委員会 (委員長: 古川泰司、担当理事: 東條尚子)

- ①第1回委員会を、8月26日WEB開催で行った。各委員の確認とともに、今後の活動方針について討議し、今年度は、COVID-19 対応にて、内保連の各種会議開催が遅れているため、次期診療報酬改定スケジュール公開を待たずに、評議員アンケート、コスト調査など、通常必要とされる委員会活動は、これまでのスケジュールを参考に行うこととした。第2回委員会は、11月5日にWEB開催で行った。
- ②上記を受け、次期診療報酬改定に向けての要望について、評議員アンケートを行った。新規の提案は、3件であった。2020年度診療報酬改定で対応のなかった案件と合わせ、改定要望として日本臨床検査振興協議会へ連絡した。
- ③日本臨床検査振興協議会からは、提案された項目のうち6件について本会でのコスト調査施行の要望が連絡され、メール稟議のうえ委員会として対応する。
- ④日本医師会・疑義解釈委員会(月2回開催)から、供給停止予定の体外診断薬がある場合、学会に通知がある。本委員会では、稟議のうえ意見返答を継続している。

5) 学会賞委員会 (委員長: 大林光念、担当理事: 田部陽子)

2020年8月18日(火)にZoom開催された学会賞選考委員会で受賞候補者を選出し理事会に報告、理事会にて受賞者が決定された。受賞者は下記の通りである。学術賞(三枝淳氏、伊藤隆史氏)、検査・技術賞(該当者なし)、若手研究者奨励賞(徳原康哲氏、茂久田翔氏、森田賢史氏、新井慎平氏)、優秀論文賞(谷田部陽子氏、大村直子氏、新井慎平氏)。

6) 標準化委員会 (委員長: 三井田孝、担当理事: 前川真人)

- ①シノテストより、学会HPに掲載している「Q&A(酵素活性の単位U/Lについて-2012年2月18日付)」の顧客への使用許可願いが提出され、希望どおり承認。
- ②株式会社医薬情報研究所より、標準化委員会が作成した「学生用共通基準圏」をドラッグノート2021へ転載することへの許諾申請が提出され、希望どおり承認。
- ③2020年11月の盛岡での学術集会の際に現地+Web方式で、今後の方針決定についての会議を行う予定。

7) 精度管理委員会 (委員長: 山田俊幸、担当理事: 前川真人)

- ①CAPサーベイについて
通常のサーベイに加え、CoV2関連サーベイを緊急追加した。
- ②臨床検査室グローバルニュースについて
順調に年4回刊行している。
- ③今後の活動
CAPサーベイ、グローバルニュース関連を軸に、各種外部精度調査につき把握する。

8) EBLM委員会 (委員長: 片岡浩巳、担当理事: 大西宏明)

- ①第67回学術集会(岩手)で、シンポジウムと教育セミナーを企画した。
 - (1)シンポジウム
 - 1)臨床検査におけるAIの概略—何ができるのか—(佐藤正一)
 - 2)臨床検査の数値情報を対象とした機械学習適用の課題(片岡浩巳)
 - 3)内視鏡検査における画像解析(西川潤)
 - 4)AI技術による病理・細胞診検査における細胞判別への応用(木村文一)
 - (2)教育セミナー
 - 1)臨床検査データと診療情報を用いた臨床研究 ~可能性と問題点~(古賀秀信)

2) 我々が AI を活用するために ～基礎知識と実例～ (松村 聡)

9) 倫理委員会 (委員長: 横崎典哉、担当理事: 古川泰司)

- ①本年度より委員長を横崎典哉、副委員長を松井啓隆、担当理事古川泰司とした新体制を発足した。
- ②第 67 回日本臨床検査医学会学術集会にて利益相反委員会合同講演会を企画し開催する。
- ③委員会活動は新型コロナウイルス感染症を考慮し自粛中であるが、新たに「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」が公示されることを前提に対応についてメールにて連絡を取り合い準備している。

10) 利益相反委員会 (委員長: 横田浩充、担当理事: 古川泰司)

- ①学会発表時の開示スライド: 5 秒程度投影するルールを啓発中。
- ②通山委員 (アドバイザー) より、日本医学会 COI 管理ガイドライン一部改定版 (202003) の提出があった。これに伴い、当学会の HP に掲載、更新 (2020.6) した。さらに、「日本医学会 COI 管理ガイドライン 2020(Digest 版)」公表のお知らせがあり、これを HP に更新した。

なお、改定ポイントは以下である。

1. Institutional (組織) COI 管理の追加記載

産学連携における医学系研究において、研究者だけでなく研究機関自体の institutional COI (組織 COI) 申告開示の推奨

2. 企業主催/共催の講演者および座長の COI 開示

企業や営利団体が主催・共催するセミナー、研究会や講演会において、座長/司会者も講演者と同様なスライドを用いた方式にて関連する企業・団体の名称を聴講者に開示し、企業名を読みあげなければならない。

③第 67 回学術集会中の委員会企画 (倫理委員会 / 利益相反委員会共催)

倫理委員会委員長の横崎典哉先生と下記の委員会企画を立案した。

「臨床検査医学研究を展開するために...知っておくべきこと、守るべきこと 2020」

座長: 松井啓隆 熊本大学大学院 臨床病態解析学講座 (倫理委員会 副委員長)

横田浩充 慶応義塾大学病院 臨床検査技術室 (利益相反委員会 委員長)

1. 臨床検査分野に関わる研究倫理の最近の話題

— 「ゲノム指針及び医学系指針の見直し」を中心に—

横崎典哉 広島大学病院検査部 (倫理委員会 委員長)

2. 企業活動と医療機関等の関係の透明性ガイドラインについて

関尾順市 医療機器業公正取引協議会

3. 「日本医学会 COI 管理ガイドライン (一部改定)」について

通山 薫 川崎医科大学検査診断学

11) ガイドライン作成委員会 (委員長: 大西宏明、担当理事: 吉田 博)

- ①第 67 回学術集会臨床検査点数委員会企画において「臨床検査のガイドラインとあるべき臨床検査室」のテーマで、吉田担当理事が現時点での考え方等について講演する。

②次版ガイドラインについて

2021 年末の発行を目指し、締切を 2021 年 3 月とし、執筆依頼を今年 10~11 月に行っている。

ガイドラインとしての有用性・利便性を高めるため、各項目において主要なエビデンスについて、できる限り言及していくこととした。

12) 検査項目コード委員会 (委員長: 康 東天、担当理事: 谷直人)

- ①JLAC10 コードについて、分析物コード; 新規 19 件、変更 5 件、識別コード; 新規 5 件、測定法コード; 新規 4 件、変更 5 件、結果識別 (固有) コード; 新規 127 件、変更 19 件、削除 1 件を実施した。

②2019年度から運用を開始した「JLACコード付番委員会」で新規体外診断薬を中心にしてJLACコードの付番を行っている。2020年は、206件の付番を行った。

13) 広報委員会（委員長：木村 聡、担当理事：✕谷直人）

①新型コロナウイルス 流行を受け、メール審議を中心に展開中。

②広報活動について

- ・りんしょう犬さんLINEスタンプ、好評配信中
宣伝用のクリアファイル(添付画像/A4, A5の2サイズ) が完成
希望者は臨床検査振興協議会まで
- ・レジデントノート誌「検査のTips」
好評連載継続中。会員の投稿を歓迎。委員会にご相談を。
- ・ポスト・コロナ時代の学会運営に関し提言を取りまとめ中。

14) 臨床検査室医療評価委員会（委員長：✕谷直人、担当理事：長沢光章）

①今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により委員会活動を行っていない。

②学術集会時の11月21日に委員会を開催し、今期と来期の目標や取組みを検討する。

（昨年は、ISO 15189認定の現状に関するアンケート調査の結果を集計し、解析を行った）

15) 遺伝子委員会（委員長：前川真人、担当理事：宮地勇人）

①日本病理学会と合同のWGで、「がんゲノム検査全般に関する指針」策定に関する作業を進めている。

②ISO/TC 215/SC 1 - Genomics Informaticsの規格文書について、コメント聴取と提出を行った。

- ・ISO/TS 20428 Health informatics - Data elements and their metadata for describing structured clinical genomic sequence information in electronic health records
- ・ISO/CD TS23357 (Clinical genomics data sharing specification for next-generation sequencing)
- ・ISO/CD TS22693 (Structured clinical gene fusion report in electronic health records)。

16) 国際委員会（委員長：小柴賢洋、担当理事：宮地勇人）

2020年度国際学会奨励賞受賞候補者を推薦し、岡田光貴氏、森田賢史氏、藤森祐多氏が受賞者として決定された。

17) 医療安全委員会（委員長：藤井 聡、担当理事：大西宏明）

①2020年11月21日（土）14：20～16：20 第67回学術集会にてシンポジウム「医療法改正後の情勢とこれからの臨床検査に必要なこと」開催予定。《演者：中山智祥先生、古川泰司先生、舘田一博先生 座長：藤井聡、大西宏明》

②第67回学術集会会期中に医療安全委員会を開催予定。来年の委員会企画等について準備、検討する。

18) 会則改定委員会（委員長：✕谷直人、担当理事：東條尚子）

今年度、会則改定に係る委員会の開催はありません。

19) チーム医療委員会（委員長：小谷和彦、担当理事：田部陽子）

①第67回日本臨床検査医学会学術集会において「在宅医療における臨床検査専門家の役割」についてのシンポジウムの実施。

②医療安全の面から医療現場に反映させる方向で、「パニック値の運用」に関する提言をまとめ、調査研究を含めて検討。第67回日本臨床検査医学会学術集会において「パニック値」についての企画の実施。

20) 学術集会企画委員会（委員長：山田俊幸、担当理事：小柴賢洋）

①第70回学術集会 集会長について

九州支部、北海道支部から推薦を受けるよう理事会に答申した。

②今後の活動

第 68 回以降の学術集会のあり方について議論する予定である。

21) ワークライフバランス委員会（委員長：田部陽子、担当理事：山田俊幸）

①臨床検査専門医取得に関するサポートセンターで 20 件の問い合わせに回答した

（1 月 1 日-10 月 16 日）。（担当：千葉泰彦 委員）

②2020 年日本臨床検査医学会第 32 回関東甲信越支部会シンポジウムにおいてワークライフバランス委員会の活動の報告を行った。（担当：増田亜希子 委員）

③第 67 回学術集会でワークショップ（第一部 RCPC、第二部ミニシンポジウム）を企画、実施する（11 月 22 日）。（担当：増田亜希子 委員、五十嵐岳 委員）

22) 統合システムに基づく臨床検査のあり方委員会（委員長：大西宏明、担当理事：小柴賢洋）

①2020 年 4 月に、人工知能を含む情報システム技術の臨床検査への応用について検討する新たな委員会として発足した。

②古川委員が参加している「内保連・外保連共同の AI・医療・診療報酬を考える委員会」の第 4 回委員会において、「臨床検査分野の現状について」と題して、田部委員が末梢血分類検査への AI の応用についてプレゼンテーションを行う予定である。

23) 新型コロナウイルスに関するアドホック委員会（委員長：柳原克紀）

2020 年 2 月 20 日に委員会を立ち上げ、下記の提言を公表した。

2020 年 3 月 1 日 新型コロナウイルスに関する提言（第 1 版）

2020 年 3 月 16 日 新型コロナウイルス検査に係わる施設基準ならびに、検体搬送・精度管理の方針【提言】

2020 年 4 月 13 日 日常検査体制の基本的考え方の提言

2020 年 4 月 17 日 COVID-19 における抗体検査についての基本的考え方

2020 年 5 月 12 日 新型コロナウイルス検査に係わる施設基準ならびに、検体搬送・精度管理の方針【提言】改訂版

2020 年 5 月 26 日 COVID-19 抗原検査についての基本的な考え方

2020 年 6 月 16 日 新型コロナウイルス核酸検査に係わる施設基準ならびに検体搬送・精度管理の方針【提言】改訂版

2020 年 7 月 31 日 無症状者に対する SARS-CoV-2 検査での注意点

2020 年 8 月 27 日 新型コロナウイルス検査の使い分けの考え方

2020 年 9 月 8 日 唾液を用いた PCR や抗原検査における検体採取や検査の注意点

24) 研修施設・指導者認定委員会（委員長：谷直人）

今年度、委員会の開催はありません。

25) 受験・更新資格審査委員会（委員長：三宅一徳）

①2020 年度の臨床検査専門医、臨床検査管理医の受験希望者の受験資格について審査を行い、臨床検査専門医・管理医審議会に報告した。

②今後、2021 年 1 月 1 日付けでの臨床検査管理医、学会臨床検査専門医の更新資格についての審査を行い、臨床検査専門医・管理医審議会に報告する予定である。

26) 試験委員会（委員長：山田俊幸）

①2020 年度日本臨床検査医学会認定臨床検査専門医試験の概要

1) 9 月 12 日～13 日、東京医科歯科大学において行われた。

- 2) 新規受験18名（5名がCOVID-19に関する施設事情などにより辞退）、科目再受験が2名であった。すべての辞退者は次回の受験を希望しており、受験料は返還しない。
- 3) 判定会議の結果、新規受験者のうち17名、科目再受験者のうち1名を合格とし、審議会で答申した。

②2020年度日本臨床検査医学会認定臨床検査管理医講習・試験の概要

- 1) 本年度は対面講習を断念し、e-ラーニングによる講習、試験（期間 1週間）とした。
- 2) 35名の受講生のうち34名を合格とし、審議会で答申した。

③来年度の試験の概要について

来年度は日本専門医機構認定臨床検査専門医初回の認定試験であり、試験のあり方、学会認定試験との兼ね合いなど、試験実行委員会と合同で検討、決定することとした。基本的考え方は、審議会で了承された。

27) 2020・2021 年度臨床検査専門医認定試験実行委員会（委員長：東田修二）

- ①第 37 回専門医試験を 9 月 12 日と 13 日に東京医科歯科大学で実施し、新規 18 名、科目再受験 2 名が受験した。5 名は COVID-19 に関わる施設事情により辞退した。
- ②判定会議を 9 月 17 日に開催し、従来からの基準（合計得点が 60%以上で、かつ、40%未満の科目がなければ総合合格）に従って合否判定を行い、上記 20 名のうち、17 名を合格とした。
- ③この判定は 10 月 9 日の臨床検査専門医・管理医審議会で承認された。

28) 2020・2021 年度臨床検査管理医認定試験実行委員会（委員長：山田俊幸）

第 12 回臨床検査管理医 講習会・認定試験は、対面講習を断念し、e-ラーニングによる講習、試験（期間 1 週間：2020 年 10 月 12 日～25 日）とした。
35 名の受講生のうち 34 名を合格とし審議会で答申した。

29) 日本専門医機構認定臨床検査専門医研修プログラム認定委員会・日本専門医機構認定臨床検査専門医更新資格審査委員会（委員長：山田俊幸）

- ①2021 年度専攻医募集用の研修プログラムの一次審査を行った。
- ②2021 年 1 月付機構認定専門医更新申請の概要を臨床検査専門医に周知した。
- ③更新単位となる講習会の認定を行った。

2. 第 68 回学術集会報告（富山 2021/11/11(木)～11/14（日）、北島勲 会長）（村上正巳 理事長）

2021 年 11 月 11 日（木）～14 日（日）に、富山国際会議場、富山市民プラザにおいて、北島勲会長（富山大）ならびに仁井見英樹副会長（富山大）のもと、テーマ「学術的な臨床検査医学のおもしろさを広げよう！」とし開催予定であり、富山の紹介と北島勲会長からの挨拶のビデオメッセージが流された。
現時点、通常対面式とオンデマンドを組み合わせた形式を計画しており、第 67 回学術集会を参考に特別講演、教育講演、シンポジウム等は学会場で収録しオンデマンドで学術集会終了後も配信する計画である。一般演題はポスター数を増やし、状況により e-poster の導入、また、事前ビデオ収録による口演発表も検討する。特別講演として田中耕一氏（2002 年ノーベル化学賞受賞）「質量分析の臨床検査応用最前線について」、日本医学会連合加盟学会連携フォーラム」は日本血栓止血学会との共催とし、ランチョンセミナーは開催方法を検討中で、懇親会は実施の方向性であることが報告された。

3. 第 69 回学術集会報告（宇都宮 2022/11/17(木)～11/20(日)、山田俊幸 会長）

2022 年 11 月 17 日（木）～20 日（日）に、栃木県総合文化センター（メイン）、宇都宮東武ホテルグランデ（サブ）において、山田俊幸会長（自治医大）のもと、メインテーマ（案）：「地域社会に貢献する臨床検査」として開催予定であり、25 年前に河合忠先生が主催された会場であることも報告された。

4. 第 37 回臨床検査専門医認定試験について（東京：2020/9/12（土）～9/13（日）、山田俊幸 試験委員長）
2020 年 9 月 12 日（土）、13 日（日）に東京医科歯科大学で、第 37 回臨床検査専門医認定試験を実施した。
新規受験 18 名、科目再受験 2 名が受験し大きな問題はなく予定通り終了した。
なお、5 名が新型コロナウイルス感染症に関する施設事情などにより辞退したが、次回受験を希望している。
9 月 17 日（木）に判定会議を開催し合否判定会議、10 月 8 日に臨床検査専門医・管理医審議会を行い、17 名が合格、3 名が不合格と判定されたことが報告された。

5. 第 12 回臨床検査管理医講習・認定試験について（WEB：2020 年 10 月 12 日～25 日、山田俊幸 管理医試験実行委員長）

9 月 13 日に東京医科歯科大学において実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催を見送り、10 月 12 日（月）～10 月 25 日（日）に講習・試験とも、e-ラーニングシステムを利用したオンラインで実施し 35 名全員が受講・受験し、34 名が合格したことが報告された。

6. 専門医関連事項について（山田俊幸 専門医担当理事）

- 1) 2021 年度専攻医登録は、11 月初旬となる予定であるが、カリキュラム制研修については、2020 年 4 月に承認された整備基準に基づいて理由書の提出のうえ登録、研修がなされる。
- 2) 日本専門医機構のシーリング対象外で、7 年かけて専門医を取得しスタッフとして残り研究を進める臨床研究医コースの募集があったが当領域は応募がなかった。
- 3) サブスペシャルティ領域新専門医制度の手順について説明された。

基本領域または機構に基本領域サブスペ領域連絡協議会を設置し、基本領域が関係するサブスペシャルティ領域の専門医制度の検討と調整を行う。サブスペシャルティ領域専門医検討委員会は、サブスペシャルティ領域が主体となり設置されサブスペシャルティ領域専門医の研修の在り方を検討する。臨床検査専門医に占める割合により、3 種類のカテゴリーがありそれに該当することが必要であり、サブスペシャルティ領域と合意することになるが、今後、関連するサブスペシャルティ領域、また、基本領域と調整していくことになる。

7. その他（村上正巳 理事長）

・日本臨床検査医学会機関紙について

現在、日本臨床検査医学会機関紙は、誌名「臨床病理」で、サイズは B5 判であるが、数年前より編集委員会で、誌名、サイズについて協議し、評議員等にもアンケート調査を実施したうえ、2021 年 1 月より、誌名「日本臨床検査医学会誌」、サイズは A4 判と変更されること、表紙デザインは、数候補から選定中であることが報告された。

IV. 審議事項

1. 2020 年度事業中間報告について（山田俊幸 庶務担当理事）

2020 年度事業中間報告があり、承認された。

2. 2021 年度事業計画案について（山田俊幸 庶務担当理事）

2020 年度事業計画（案）が提示され、承認された。

3. 2020 年度中間実績報告・2020 年度補正予算案・2021 年度予算案について（メ谷直人 会計理事、村上正巳 理事長）

2020 年度中間実績は、2021/1/1～2020/6/30 までの実績額での報告である。

2020 年度補正予算案については、JACLaS からの寄付金（1 千万円）がなくなったこと、持続可給付金（2

百万円)の給付を受けたこと、第66回学術集会(岡山)から学会への繰入金があったこと、会議等がWEB開催となったことから交通費、会議費等の経費が少なくなったこと、また、オンライン会議が主体となり機器等の充実が必要であるため事務所備品等の増額を検討し反映した。

2021年度予算案については、2020年度を踏襲したが、2021年度は臨床検査のガイドライン発行があるため、制作費は特別会計から補填すること、一般会計の収入と支出の差額によりマイナスとなるため、特別会計から500万円補填するようにし合計1,000万円の補填となった。

以上が報告され、承認された。

4. 2021年度からの名誉会員・功勞会員・社員(評議員)の推薦について(村上正巳 理事長)

1) 名誉会員として、理事会で推薦された高木康先生が承認された。

2) 功勞会員として、各支部から推薦され理事会で承認された下記13名が承認された。

北海道支部から家子正裕先生、関東・甲信越支部から小方則夫先生、菊池春人先生、柴田綾子先生、信岡祐彦先生、本田孝行先生の5名、東海・北陸支部から中谷中先生、中村栄男先生の2名、近畿支部から太田善夫先生、藤本眞一先生、松尾収二先生、宮野章先生の4名、九州支部から岡山昭彦先生、松永彰先生の2名。

3) 評議員(社員)として、各支部から推薦され理事会で承認された下記12名が提示され承認された。

東北支部から張替秀郎先生、藤原亨先生の2名、関東・甲信越支部から荒木修先生、小野佳一先生、西川真子先生、松田将門先生、森山雅人先生、横山直之先生の6名、東海・北陸支部から岩泉守哉先生、原田健右先生の2名、近畿支部から、神田晃先生、中前美佳先生の2名。

5. 第70回学術集会(2023年)会長の推薦について(村上正巳 理事長)

九州支部から柳原克紀先生(長崎大)が推薦され、承認された。

その後、柳原先生から一言挨拶があった。

6. 評議員(社員)再任予定者(2021/01/01)について(村上正巳 理事長)

2021年1月1日付評議員(社員)の再任手続きは、12月下旬の評議員審査委員会での審査後となるが、評議員(社員)の再任には社員総会の承認が必要であるため、2021年1月1日付の評議員(社員)再任予定者48名が提示され、再任単位を満たさない場合や辞任の場合は退任となることを前提としたうえで承認された。

7. その他(山田俊幸 庶務担当理事)

2020年度に係わる定時社員総会は、2021年3月27日(土)に開催されることが報告された。

V. 閉会(東條尚子副理事長)

東條尚子副理事長から閉会の挨拶があり、臨時社員総会を閉会した。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、議長及び議事録署名人がこれに記名押印する。

2021年2月8日

一般社団法人日本臨床検査医学会臨時社員総会

議長 代表理事 村上正巳

議事録署名人 橋口照人

2020年度 日本臨床検査医学会 総会だより

日時：2020年11月20日（金）11：15～12：15

会場：アイーナ（いわて県民情報交流センター）7F 第1会場（LIVE会場）

開催方法：ハイブリッド開催

出席：現地参加（60名）、オンライン（95名）

冒頭、村上正巳理事長より挨拶があった。

その後、第67回学術集会長の諏訪部章会長が議長となり、名誉会員の丹羽正治先生（東海大学 元教授 享年101歳：2019/11/28）、松原藤継先生（金沢大学 名誉教授 享年94歳：2020/2/1）の逝去を悼み黙祷がなされ、議事を進行した。

臨時社員総会と同じ内容の報告がなされた。

東條尚子副理事長より、挨拶があり総会を閉会した。

総会終了後、臨床検査専門医認定証、国際学会奨励賞、学会賞・功労賞の授与、新名誉会員・功労会員の顕彰の表彰式が執り行われた。